

# NJ素流協 News

令和7年2月10日

第241号

令和7年2月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

## 第5回スギ高樹齢原木展示即売会が開催されました

— NJ素流協が後援！組合員さんの出品もありました！—

1月24日(金)、秋田県能代市で、「第5回スギ高樹齢原木展示即売会」が、「第30回東日本銘木展示会」初市特市(協同組合 秋田県銘木センター主催)と併せて開催されました。

この即売会は、原木の競り売り市で、これまで国有林由来の希少な天然秋田杉をはじめ、ポスト天杉時代を担う良質な国有林材・民有林材が県内外から多く出品されてきた記念市です。

【秋田県木材産業協同組合連合会が展示即売会を開催した目的】

現在の木材需要の低迷により、A材であっても、需要の多くを占めるB材として扱われることが危惧されると共に、高樹齢材も適正な価格評価がされていない状況にあります。

その一方で、高度な銘木・役物製材技術を有する秋田県では、近

年優良な高樹齢丸太の安定確保が

困難となったことで、今後の大径材の伐採や銘木製材の技術継承が大きな課題となりつつあるため、

秋田県木材産業協同組合連合会は、高樹齢原木の付加価値の創出を図

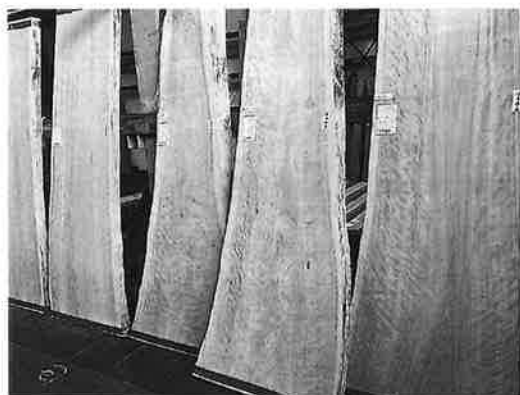
ることを目的とした展示即売会を開催し、NJ素流協も後援をしているところ です。

【第5回スギ高樹齢原木展示即売会の視察】

今回は、鈴木理事長他、営業企画部3名の計4名が原木競りの様子や製品を見学しました。

近年、良質な高樹齢原木の入手が困難になっており、銘木を扱う製材所での原木需要が高まっていることから高値販売が期待され、NJ素流協からは、2組合員の出品がありました。

出品はスギ4m、66・760mとなり、全量が落札となりました。



製品も見学させていただきました



原木競り会場の様子

出品にご協力いただいた組合員の皆様、ありがとうございます!!引き続き、高樹齢スギ出材予定者へはご相談ください。

た。

# トピックス

## 令和6年度森林林業中央研修会が開催されました

1月17日、東京都で全国素材生産業協同組合連合会と全国国有林造林生産業連絡協議会主催の「令和6年度森林林業中央研修会」が、林野庁国有林野部長 眞城英一氏からの挨拶で開催され、当組合からは組合員・事務局役職員合わせて29名が出席しました。

研修内容は以下の通りです。

### ▽日本の森林・林業と木材利用

林野庁 林政部 木材産業課長 福田 淳 氏

### ▽国有林野事業の展開方向について

林野庁 国有林野部 業務課長 宇山 雄一 氏

### ▽花粉症対策の現在とこれから

国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所 森林植生研究領域チーム長（花粉動態研究担当）

倉本 恵生 氏

### ▽これからの林業を考える〜温故知新と起死回生〜

一般社団法人 日本木質バイオマスエネルギー協会 会長 酒井 秀夫 氏

### ▽林業信用保証について

独立行政法人 農林漁業信用基金 総括理事 佐伯 知広 氏

## 令和6年度東北地区需給情報連絡協議会が開催されました

当組合が事務局を務める「令和6年度東北地区需給情報連絡協議会」が1月23日にオンライン開催

され、林業・木材産業関係者、学識経験者、林野庁職員、地方自治体職員等約30名が出席しました。

林野庁から、木材需給の動向と見通し、構成員に実施したアンケートの結果等について報告があった後、座長を務める秋田県立大学木材高度加工研究所所長 高田克彦教授の進行により、川上から川下ま

での各業種における現在の需給動

向、木材取引の現状と再造林の確保に向けた取り組み、今後の木材情報の共有のあり方等について意見交換が行われました。

内容は、2月中旬〜下旬頃、林野庁HPで公開予定です。

## 令和6年度東北森林管理局第3回国有林材供給調整検討委員会に参加しました

令和6年12月11日、秋田県で「令和6年度東北森林管理局第3回国有林材供給調整検討委員会」が開催され、当組合から一条参与兼経営企画管理部長が出席しました。

委員会では、

●首都圏を中心に安値が先行しており、底値が見えない状況が続く。

●合板用素材は製品市況の低迷に伴い生産量減少傾向も、合板メーカーの生産調整継続で先行き不透明感が強く、価格は弱含み傾向。

●製材品は、入荷低調でも出荷量が例年以下のため危機感が薄い状

況。集材材・合板も動きは低調だが、輸出への期待は大きい。

といった意見が出され、今後も木材市況の先行きが不透明であることから、国有林材の供給にあたっては引き続き今後の市況や需給動向を注視するよう求めることとなりました。

開催結果の詳細は左記をご覧ください。

東北森林管理局HP  
<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/koho/kohyo/240710.html>



## 令和7年度林野庁予算概算 〜素材生産関連の予算について〜

12月27日に、令和7年度予算概算が決定しました。中でも、素材生産・流通に直結する「森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策」の内容を抜粋してお伝えします。

森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策  
川上から川下までの森林・林業・木材産業政策を総合的に推進



**国産材の  
供給・利用量  
を増やす！**

**●林業・木材産業循環成長対策**

- ①・循環型資源基盤整備強化対策（間伐材生産、路網整備、低コスト再造林対策等）
  - ・高性能林業機械の導入
  - ・林業の多様な担い手の育成
  - ・森林資源保全対策 等…

②木材需要拡大・木材産業基盤強化対策

公共建築物等の木造・木質化、木材加工流通施設の整備等を支援

**●建築用木材供給・利用強化対策**

1. 森林を活かす都市の木造化等促進総合対策事業

◇中層建築物に重点を置いた建築用木材（木質耐火部材、J A S 構造材等）の利用実証、強度や耐火性に優れた建築用木材の技術開発・普及を支援

◇円滑な木材供給のための環境整備に向け、川上から川下までが連携した木材安定供給体制の構築等を支援

2. CLT・LVL等の建築物への利用環境整備事業

◇中高層・非住宅建築物へのCLT・LVLや製材等の利用に向け、標準的な木造化モデルの開発・普及等を支援

◇大径材等の活用に向けた設計手法や効率的な加工技術の開発・普及を支援

3. 建築用木材供給・利用人材確保対策事業

◇都道府県単位等で行う木造建築物の設計者・施工者の育成を支援

◇木材産業における外国人材の円滑な受入に向けた特定技能測定試験等を実施

**●木材需要の創出・輸出力強化対策**

1. 非住宅建築物等木材利用促進事業

地域協議会等に対する専門家派遣等の技術的サポート等を支援

2. 木質バイオマス利用環境整備事業

利用が低位な林地残材の活用を更に促進するための環境整備の取組を支援するとともに、「地域内エコシステム」の普及に向けた取組を支援

3. 木材製品輸出拡大実行戦略推進事業

CLT、構造用集成材等の販売力強化のための協議会設立等を支援

4. 「クリーンウッド」実施支援事業

事業者による合法性確認の取組の支援、専門委員会の設置、違法伐採関連情報等の提供

5. ウッド・チェンジ拡大促進支援事業

循環利用に資する木材利用の意義への認知向上等、普及啓発を推進

## ●林業・木材産業金融対策

### 1. 林業施設整備等利子助成事業

意欲と能力のある林業経営者や自然災害の被害を受けた林業経営者が株式会社日本政策金融公庫から資金を借り入れる場合等の利子について、**最大2%・最長10年間助成（実質無利子化）**

### 2. 林業信用保証事業

独立行政法人農林漁業信用基金に対し、以下の経費を支援

◇林業者等が事業承継・創業、重大な災害からの復旧に取り組む際に必要な資金の借入に係る保証料を免除するために必要な経費

◇**保証料率を軽減し**、信用基金の財務基盤等を維持するために必要な経費

## ●林業デジタル・イノベーション総合対策

### 1. 林業イノベーションハブ構築事業

イノベーションの推進に向けた支援プラットフォームの構築・運営等を実施

### 2. 戦略的技術開発・実証事業

**林業機械の自動化・遠隔操作化技術、森林内通信技術、木質系新素材等の開発・実証を支援**

### 3. ICT活用推進対策

◇ICT活用技術者育成事業

ICT等先進技術を活用して資源分析や路網設計ができる技術者の育成等を実施

◇ICT活用環境整備事業

ICTを活用して資源調査や生産管理等の効率化・省力化を図るソフト等の導入を支援。

また、林地台帳を効率的に更新するツールの整備等を実施

### 4. デジタル林業戦略拠点構築推進事業

地域一体で林業活動にデジタル技術をフル活用する拠点づくりを支援

**デジタル技術や  
プラットフォーム構築の推進！**

## ●森林・林業担い手育成総合対策

### 1. 森林・林業担い手育成対策

◇「緑の雇用」担い手確保支援事業

**新規就業者への体系的な研修、現場技能者のキャリアアップ研修等を支援**

◇緑の青年就業準備給付金事業

林業大学校等において知識・技術等の習得を促進し、有望な人材として期待される青年を支援

◇未来の林業を支える林業後継者養成事業

高校生等を対象とする林業への就業促進活動、林業グループや女性林業者の活動を支援

◇技能評価・外国人材受入推進対策

林業に関する技能評価の推進、**外国人材受入れに向けた条件整備を支援**

◇森林プランナー育成対策

施業集約化に向けた合意形成や木材の有利販売に取り組む森林プランナーの育成に向けた取組を支援

### 2. 林業労働安全強化対策…労働災害を未然に防止するため、**安全診断、研修の実施等を支援**

**新規就業者を確保！**

### ●森林の集約化モデル地域実証事業

#### 1. 集約化モデルの実証支援

- ①林業経営体、市町村、都道府県、森林所有者等の関係者の協議による集約化に係る合意形成を支援
- ②ICTを活用した森林調査や境界の明確化、所有者探索等を実施し、経営管理の権利を設定する集約化の取組を支援

#### 2. 専門人材の養成や集約化に係るノウハウの整理・分析 森林の集積・集約化を支援する専門人材を養成、所有者不明対策や境界明確化に係るノウハウを整理・分析し横展開を図る

**小規模・分散、境界が不明な森林に対応！**

上記の他にも、スギの伐採・植替えや、花粉の少ないスギ苗木の生産拡大といった花粉症対策にも重点的に取り組んでいくとのことです。

以上、具体的な内容については、関係部局へお問い合わせください。

また、疑問点や確認したい内容については、NJ素流協でも対応しますのでご相談ください。

令和7年度林野庁予算概算と令和6年度補正予算を併せると、今年度を上回る額となります。早期に国会を通過してもらいたいですね！

**林野庁広葉樹利活用  
検討会の視察を受け  
入れました**

1月15～16日の2日間、林野庁による「令和6年度広葉樹利活用検討会」が岩手県で開催され、当組合は視察先の案内及び講演を行いました。

この検討会は、広葉樹原木に対する品質管理の向上や、需要者側



製材工場での広葉樹製品視察の様子

のニーズへの意識醸成等を図るとともに、広葉樹原木生産現場を参考に、他局の取り組みを推進する目的で開催され、林野庁国有林野部経営企画課、業務課、全国すべての森林管理局から合わせて16名の職員の参加がありました。

初日は広葉樹製品の生産現場において、広葉樹の採材方法、仕分け等について視察し、2日目は盛岡木材流通センターにおいて、市況動向、出品される広葉樹の樹種傾向、規格等を確認後、当組合鈴木理事長による「近年の広葉樹をめぐる動向と利用の可能性について」の講演がありました。



原木市場視察の様子

参加した方からは、「広葉樹に関する取り組みへの大きな推進力になった」、「引き続き国有林野事業及び広葉樹利活用に向けた取り組みなどを進めていく」との感想がありました。

**お知らせ**

**「自己研鑽研修助成金」  
の申請について**

当組合員の役員・従業員が技術や知識向上のため、外部研修会等

に参加した場合や、独自に研修会等を開催した場合、その経費の一部を助成します。

**申請期限は2月末日まで**となっておりますので是非ご活用ください。

なお、今年度、要領が改定となっております。詳細については経営企画課 吉田までお問い合わせください。

### 令和6年度第2回林業経営講座を開催します!!

令和6年度の第2回林業講演会を次のとおり開催します。

【テーマ】

「免税軽油に係る書類作成勉強会」

【日時】

令和7年2月21日(金)

10時00分～15時00分

【会場】

岩手県滝沢市 岩手産業文化センターツガワ未来館アピオ 第6会議室

【内容】

「免税軽油使用に係る申請書及び

報告書等の作成」

配布資料を基に書類を作成する実践的な勉強会であり、基本的な書類作成の流れを体験します。

軽油引取税の課税免除特例措置は令和9年度3月末まで延長されましたが、利用実績が伸びていないことを指摘されています。積極的に使っていきましょう！

内容の詳細につきましては送付済みの案内文書をご覧ください。皆さまの参加をお待ちしております！

### ブナ丸太は細物でも募集中

ブナ丸太について、太物だけでなく細物でも需要があります。

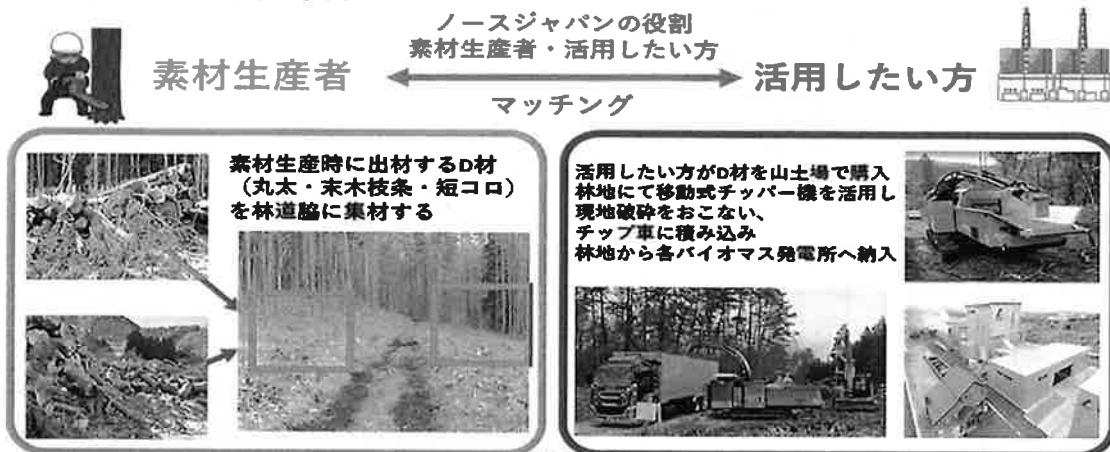
納入のご相談がありましたら、営業企画部まで気軽にお問い合わせください。

### 林地残材を活用しませんか？

NJ素流協は、林地残材を活用したい方と素材生産業者様とのマッチングを行い、共同販売事業として、バイオマス発電所に納入しています。

マッチングのご希望がありましたら、営業企画部まで気軽にお問い合わせください。

～林地残材の活用の事例～



メリット

- ・造林作業のコストの削減
- ・造林が進むことで作業環境の安全化と効率化
- ・健全な森林環境サイクルの確保

メリット

- ・不足している原料材の確保
- ・現地破碎により輸送コストの削減

# ちよつと気になる木の話

「モクコレ」から「脱プラコレ」へ  
ー木造・木質化から一歩前進ー

YKK APの木製サッシのCMが流れ始めた。木製サッシ協議会設立から、40年近くになるが、やっと木製サッシ時代が来たかなくである。現在、民間建築物への木造化・木質化の木材利用促進協定を見ると、大手ゼネコン、全国展開店舗が多い。この中では、木造・木質化が唱えられている。構造材を中心として、床、壁といった内装材の世界である。このことは、国土交通省と建築分野での共同協調路線が地に着き始めたとも言える。

しかし、建物、店舗、住宅を見廻してみると別世界である。そこには、ドア、間仕切り、ロッカー、下駄箱、ホワイトボード、陳列棚、イトインスペース、トイレ、バス、システムキッチン、机イス、ソファ、傘立て、ゴミ箱、ハンガー、部屋プレート、管内案内図、サッシ、ブラインド、シャッター、野外車庫、手すり等様々なものがある。建材・家具・建具といわれる大型の物から、各種小さな備品・日用品まで様々である。本来は、この分野の木質化は、極めて

重要であり、活用すれば量的にも拡大である。尚且つ、この世界には、m単価は全くないと言える。1個いくらである、m単価にしたら、目が飛び出るくらい単価となる。もちろん、小さい形状からすると、木材加工の歩留まり向上には、寄与できると考えられる。

しかし、これらの製造メーカーは、木材産業でも建築産業でもなく、ほぼ経済産業省所管であると言える。バス・キッチン  
の大手メーカー例は、TOTO、LIXIL、パナソニック、トクラス、タカラスタンダード、クリナップ...となる。木材に関係がないかと言えは、LIXILはヤマハでもちろん楽器・スキー等に関係していたし、今でも関係している。パナソニックも木材の工場を持っていた。LIXILは大合併しているから元のサウエーブは日本建具工業である。少し可能性があるかなあ？  
オフィス家具メーカーは、ご存じの通り、国産材利用に熱心に取組んでいる。大手の代表のイトーキ・コクヨ・オカムラ・ウチダ等である。ブラインドメーカーは、既にも木製ブラインドの商品も販売しているが、国産材業界の供給力は、ま

だまだと言える。木製シャッターも見たことがある。

一方、家具メーカーは木材利用を続けているが、外材利用から国産材利用へ転換が始まったばかりである。広葉樹オンリーから針葉樹家具への取組みもスタートダッシュの時代である。しかし、家具メーカーの材料のニーズ、仕入れ先の情報は、川中・川上にはルートが途絶えたままである。もう一度構築しなければならぬ。家具メーカーも経済産業省所管である。

更に、木工業界である。様々な日用品も含めて加工しており、町に行けば、どここのだれがやっているのはわかってる。近年は、若い人も参入して、木工クラフトと言われる会社も設立されている。しかし、こちらも川中・川上へのルートは無いと言える。先ずは、木工業界のリストを都道府県別に整理して作ることが最初である。木工業界等は、その名の通り「木」の職業である。既存の建具屋さん、アルミ・鉄等の建材メーカー品に商売の中心は移ったが、細かい木工等の技術プロフェッショナルである。  
最後に、伝統工芸品である。木に関わる品物がほとんどと言える。しかし、指定市町村を外れると同じ県でも、その需要に依る活動は皆無と言っているのか

なあ？先月、長野県のお六楯に使うオノオレカンバ30cm上が、岩手県から市場經由で調達された。和傘の重要パーツ「枝分かれ」のエゴノキのニーズとか知らないよね？こけしならミズキ、樺細工ならヤマザクラの皮、神主の立札ならイチイ、ハンコならツゲ等様々である。とりあえずリストアップして、県内情報はもちろんのこと、県をまたいで東北エリアとか、最後は全国にニーズを発信すべきである。この所管も経済産業省である。

色々書いたが、林業業界・木材産業界は建物への木材利用に集中しがちの傾向は否めない。「立って・座って・見廻して、これ木にならないかなあ？」と意識することが大切である。でも、やはりこれを接着させるコーディネーターが必要である「瞬間接着できるコーディネーターが理想」国土交通省の関係と同様に経済産業省との関係構築も「鍵」である。人事交流もかなう!!  
インバンド需要の高まる今こそ、和風旅館・温泉は、プラスチックの桶ではなく木の桶でしよう!!ここに、まさか、プラスチックのゴミ箱はないよね。ゴミは捨てても、ごみ箱は長く使おうでしょう！  
今回は「脱プラコレ」開催を夢みた241号でした。



令和7年1月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	15,047	110.4	118.6	11,744	96.5	112.0	26,790	103.8	115.6
カラマツ	5,084	97.6	93.3	90	119.5	62.9	5,174	97.9	92.5
アカマツ	3,431	157.3	158.0	185	383.7	62.2	3,616	162.2	146.5
その他	94	*	*	259	121.5	141.4	353	165.8	193.0
合計	23,656	112.5	116.5	12,277	98.2	110.5	35,933	107.2	114.4

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	2,928	103.4	64.0
カラマツ	3,226	79.7	79.8
アカマツ	1,185	74.8	58.8
その他	747	91.5	676.6
合計	8,087	87.1	75.2

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	126,428	125,322	251,751	37,855
カラマツ	52,439	1,979	54,418	39,128
アカマツ	23,709	1,347	25,056	11,302
その他	293	1,646	1,939	6,042
合計	202,869	130,294	333,164	94,326
目標達成率 (%)	84.5	74.5	80.3	69.9
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和7年2月の需給動向】

- 合板、集成材、製材工場の原木在庫が少なく、原木の引き合いが更に強まる。この原木不足の状況は2月も続き、原木価格を値上げし集荷する工場も出てきている。
- 広葉樹の引き合いも強まり広葉樹出材量は増加。針葉樹減少の要因ともなる。

耳からウロコ

モミの木は残った？残らなかった？  
—モミの木に拘わる用途の転換—

今でも仙台伊達藩の代名詞といわれる言葉が「モミの木は残った」である。だが、モミの木の用途を考えると「モミの木は残らなかった」である。江戸時代以前からモミの木の用途の最大は棺桶である。火葬ではなく土葬時代は、白い棺は清楚でありかつ腐り易いことから、モミの木が重宝されたのである。結果、土の中で棺は早く腐朽して無くなり自然にもどり、モミの木は残らなかったのである。

次に、墓石の後ろに立てる塔婆である。白い木肌に黒い墨の文字がはつきり出る事から使われていた。私の若い頃は、東京の多摩地域に塔婆の製材工場がいくつもあつたと記憶している。採算性が良いと言いつつ何故、と聞いたら「家の格式によって塔婆の大きさを変えるので、丸太から製材した時に、サイズがバラバラでも全て出荷できる」と。製材歩留まりは最高！確かに、家の格に応じて葬儀代金も大きく違つていたと記憶している。

同様な意味で、絵馬需要である。白板に黒字である。前橋勤務時代は、毎年いわきの市場に成田山新勝寺向け、モミ丸太の出荷希望があつた。今でも拘つてるのかな？ただし、板自体は安く、お寺さんの焼き印を押すとお寺で買う値段になる。一枚千円

は(㎡単価だと...)これはすごいね!!

今でもモミの木に拘わる最大は、蒲鉾板である。蒲鉾は、未だに板の上に盛り上げて売られている。この木がモミの木である。ある年、突然に小田原市に市町村出向の形で林野庁から人事交流される。小田原市長が木材担当の私に会いに見えられた。大切な海を守るには、きれいな森林を育て守つて、きれいな水が大切だと...。これが目的だと納得。でも、木材担当なのと思つていたその時である。「小田原名物の蒲鉾板を小田原の木を使い、国産材にきり替えたい。」との要望が伝えられた。蒲鉾なら新潟かな...と思つた調査を開始した。そこで判つたのが、静岡県焼津に蒲鉾板団地があると言つた。そこでは、ヨーロッパモミを使つてるとなつた。モミを小田原では無理なので、白い木の代用は何か？である。スギの白太しかなないじゃん！そこからスギの白太の蒲鉾板利用のチャレンジが始まつた。

現在は、蒲鉾で有名な「鈴廣」で使われているという。モミが使われていたのは白さもあるが、蒲鉾からの水分を板が吸収する材質が重要である。スギの白太はピツタシカンカンである。東京の寺のグループも塔婆はモミの木に拘わらないとニュースにもなつた。もう一度、モミの木に拘わる品物を豊富にあるスギの白太利用がビジネスチャンスかな？スギの白太多い丸太は一般的には安いもあるし...